

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	論理国語（論理国語a）	2	普通科	3
教材・副教材	論理国語（桐原書店）頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いづな書店）			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業、2・3 継続履修です。 ○論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力を培う。 ○個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫する力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読みその内容や形式について批評したり討論したりする能力を育成する。 ○自然、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて新たな観点から自分の考えを深め、読書に親しむ態度を身につける。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	授業態度の観察 定期考査 小テスト 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 課題の点検 発表態度の観察	授業態度の観察 課題の点検 発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	混じり合う言葉《言語》 言語と記号 《記号》	<ul style="list-style-type: none"> ○評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○具体的な事例と筆者の意見に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ○挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 ○「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。 ○社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回	環境問題と孤立した個人《環境》 鏡の中の現代社会《時間》	
	第3回	おじいさんのランプ《情報》 原始社会像の真実《歴史》	
後期	第4回	ロボットは意志を持つか《哲学》 社会が壊れるとき《共同体》 サッカーにおける「資本主義の精神」《社会》	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	論理国語（論理国語β）	2	普通科	3
教材・副教材	論理国語（桐原書店）頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いづな書店）			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業、2・3 継続履修です。 ○論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力を培う。 ○個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫する力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読みその内容や形式について批評したり討論したりする能力を育成する。 ○自然、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて新たな観点から自分の考えを深め、読書に親しむ態度を身につける。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	混じり合う言葉 《言語》 言語と記号 《記号》	<ul style="list-style-type: none"> ○評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○具体的な事例と筆者の意見に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ○挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 ○「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。 ○社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回	環境問題と孤立した個人《環境》 鏡の中の現代社会《時間》	
	第3回	おじいさんのランプ《情報》 原始社会像の真実《歴史》	
後期	第4回	ロボットは意志を持つか《哲学》 社会が壊れるとき《共同体》	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	文学国語（文学国語a）	2	普通科	3
教材・副教材	文学国語（桐原書店）頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いづな書店）			
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。 ○人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	授業態度の観察 定期考査 小テスト 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 課題の点検 発表態度の観察	授業態度の観察 課題の点検 発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	随筆1 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ○評論に述べられた内容を的確に理解し、「言葉」の意義や特質について考える。 ○小説を読み、そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から、生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と、俳句に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や、人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学の価値や意義について考える ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	詩歌 随筆2	
	第3回	戯曲 小説2	
後期	第4回	評論	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
国語	古典探究（古典探究a）		2	普通科	3
教材・副教材	精選 古典探究 古文編（数研出版） 読解を大切に 体系古典文法（数研出版） 入試対策ベストセレクション古文単語 3 2 5（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）		精選 古典探究 漢文編（数研出版） 必携 新明説漢文（尚文出版）		
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <p>○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。</p> <p>○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 ワークシート 課題の点検		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話2(古文) 史話(漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。
	第2回	日記2(古文) 漢詩(漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。
	第3回	作り物語(古文) 史記(漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
後期	第4回	歴史物語(古文) 小説(漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
国語	古典探究（古典探究β）	3	普通科	3	
教材・副教材	精選 古典探究 古文編（数研出版） 読解を大切に 体系古典文法（数研出版） 入試対策ベストセレクション古文単語 3 2 5（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）		精選 古典探究 漢文編（数研出版） 必携 新明説漢文（尚文出版）		
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <p>○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。</p> <p>○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通して、自己の学習課題を分析し、解決する。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話2 (古文) 日記2 (古文) 史話 (漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。 ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。
	第2回	作り物語(古文) 漢詩 (漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。 ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。
	第3回	歴史物語 (古文) 評論 (古文) 史記 (漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。
後期	第4回	作り物語 (古文) 俳諧 (古文) 小説 (漢文)	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	国語研究（国語研究a）	3	普通科	3
教材・副教材	論理国語（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能，自分の考えを多彩に表現する力を身につけ，言葉を通して社会と関わろうとする態度を養う。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の役割や表現の特色を理解し，自らの考えを表現するための語彙を豊かにすること。 ○論理的な文章や実用的な文章を読み，それに対して適切な根拠を用いながら自らの考えを表現すること。 ○目的や課題に応じて情報を収集し，整理したり話し合ったりしながらまとめること。 <p>指導については，次の点に配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の役割や表現の特色を理解する際は，一般的な知識としての理解に終始することなく，場面や手段に応じた使い分けを習得させるようにする。 ○文章の種類による構成や展開の仕方の特徴を理解できるよう，多くの論理的な文章や実用的な文章を扱う。 ○他者の考えを聞き，自らの考えを広げ，深められるよう，話し合いの活動を適宜取り入れるようにする。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々なテキストを通して，その内容や背景に関する知識や教養を身につけ，実社会に役立つ力を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して，自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて，自己の学習課題を分析し，解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	実社会に必要な国語の知識や技能をもとにし，自分の考えを多彩に表現する力を身につけている。	言葉を通して社会と関わろうとする態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	資料整理 テーマの吟味	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事や報道文を読み、表現の特徴に注意して筆者の意図を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○小論文の型を習得し、自己評価と相互評価を行い、表現効果を吟味して論理的文章を書く力を養成する。 ○社会と人間の在り方を主題とする意見文を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図、様々な情報を参考にして実用的な文章や論理的な文章を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回	仮説と検証 資料の活用	
	第3回	図表の読み取り方 引用の方法	
後期	第4回	研究の解説 統計資料読み取り	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	国語研究（国語研究β）	2	普通科	3
教材・副教材	論理国語（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能，自分の考えを多彩に表現する力を身につけ，言葉を通して社会と関わろうとする態度を養う。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の役割や表現の特色を理解し，自らの考えを表現するための語彙を豊かにすること。 ○論理的な文章や実用的な文章を読み，それに対して適切な根拠を用いながら自らの考えを表現すること。 ○目的や課題に応じて情報を収集し，整理したり話し合ったりしながらまとめること。 <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々なテキストを通して，その内容や背景に関する知識や教養を身につけ，実社会に役立つ力を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して，自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて，自己の学習課題を分析し，解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	実社会に必要な国語の知識や技能をもとにし，自分の考えを多彩に表現する力を身につけている。	言葉を通して社会と関わろうとする態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	資料整理 テーマの吟味	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事や報道文を読み、表現の特徴に注意して筆者の意図を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○小論文の型を習得し、自己評価と相互評価を行い、表現効果を吟味して論理的文章を書く力を養成する。 ○社会と人間の在り方を主題とする意見文を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図、様々な情報を参考にして実用的な文章や論理的な文章を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回	仮説と検証 資料の活用	
	第3回	図表の読み取り方 引用の方法	
後期	第4回	研究の解説 統計資料読み取り	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
国語	文学研究a（文学研究a）		3	普通科	3
教材・副教材	文学国語（桐原書店） 論理国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いづな書店）				
科目の目標	主に近代以降の文学的な文章を読んで、人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるとともに、資料を活用して自らの考えを発展させ、進んで表現することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○文学的な文章について、物語の展開や表現の効果を的確にとらえること。 ○文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 ○様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 ○目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	近代以降の文学的な文章を読むために必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	文学的な文章を読む中で、人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるとともに、資料を活用して自らの考えを発展させている。	自らの考えを進んで表現し、人生を豊かにする態度を養おうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	授業態度の観察 定期考査 小テスト 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 課題の点検 発表態度の観察	授業態度の観察 課題の点検 発表態度の観察		
年間指導計画					

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	評論1 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り, ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し, 主人公の内面と苦悩について考える。 ○評論に述べられた内容を的確に理解し, 「言葉」の意義や特質について考える。 ○小説を読み, そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から, 生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と, 俳句に関する評論を読み, 詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や, 人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み, 文学の価値や意義について考える ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み, 現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	随筆 1 戯曲 1	
	第3回	評論 2 小説 2	
後期	第4回	戯曲 2	

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
国語	国語特講（国語特講a）	2	普通科	3	
教材・副教材	論理国語（東京書籍） 文学国語（東京書籍） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いわずな書店） 精選 古典探究 古文編（東京書籍） 精選 古典探究 漢文編（東京書籍） 新修 古典文法（京都書房） 必携 新明説漢文（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	中古から現代まで幅広い時代の文章を読むことによって、語句の意味や表現方法といった読解の際の基本事項を身につけるとともに、様々な時代の人々の生き方や物事の考え方、我が国の文化と伝統について理解を深める。				
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 ○文章や作品に用いられている語句の意味、用法及び表現を理解すること。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確にとらえ、自らの生活や人生について考えを深めること。 ○様々な時代の人々の考えや思いに触れ、多様なものの見方や考え方を理解すること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	中古から現代まで幅広い時代の文章を読むことによって、語句の意味や表現方法といった読解の際の基本事項を身につけている。	様々な時代の人々の生き方や物事の考え方に触れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	様々な時代の人々の生き方や物事の考え方を通して、我が国の文化と伝統について理解を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 ワークシート 課題の点検		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話（古文） 史話（漢文） 評論（現代文）	○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。
	第2回	日記（古文） 漢詩（漢文） 小説（現代文）	○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。
	第3回	歴史物語（古文） 史記（漢文） 実用的文章（現代文）	○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
後期	第4回	俳諧（古文） 思想（漢文） 評論（現代文）	○評論文の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。 ○新聞記事や報道文を読み、表現の特徴に注意して筆者の意図を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○小説における場面展開や、人物の性格・心理の描写を読み取る。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	地理探究（地理探究a）	3	普通科	3
教材・副教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 最新地理図表G E O（第一学習社） データブックオブザワールド（二宮書店）			
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方 地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</p> <p>○現代の世界について、地域（市町村規模、国家規模、州・大陸規模）を通して学ぶ。</p> <p>○現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。</p> <p>○地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を述べる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的：批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	地域の考察方法 地誌的な考察方法 中国 -項目ごとに整理して考察 韓国 -項目ごとに整理して考察	
	第3回	ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察 インド -経済成長に関連づけて考察 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察	
後期	第4回	北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察 EU諸国 -項目ごとに整理して考察 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察	
	第5回	アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	地理探究（地理探究β）	3	普通科	3
教材・副教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 最新地理図表G E O（第一学習社） データブックオブザワールド(二宮書店)			
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方 地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</p> <p>○現代の世界について、地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)を通して学ぶ。</p> <p>○現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。</p> <p>○地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を述べる。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的：批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うおとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	地域の考察方法 地誌的な考察方法 中国 -項目ごとに整理して考察 韓国 -項目ごとに整理して考察	
	第3回	ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察 インド -経済成長に関連づけて考察 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察	
後期	第4回	北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察 EU諸国 -項目ごとに整理して考察 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察	
	第5回	アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	地理探究（地理探究γ）	6	普通科	3
教材・副教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図(帝国書院) 最新地理図表G E O（第一学習社） データブックオブザワールド(二宮書店) 新地理要点ノート(啓隆社)			
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方 地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</p> <p>○現代の世界について、地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)を通して学ぶ。</p> <p>○現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。</p> <p>○地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を述べる。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わらなければならないかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中、また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 工業 第3次産業	
	第3回	交通・通信 観光 貿易と経済圏 人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	
後期	第4回	衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題 地域の考察方法 地誌的な考察方法 中国 -項目ごとに整理して考察 韓国 -項目ごとに整理して考察 ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察 インド -経済成長に関連づけて考察 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察	
	第4回	北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察 EU諸国 -項目ごとに整理して考察 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	日本史探究（日本史探究a）	3	普通科	3
教材・副教材	詳説日本史（山川出版社） ゼミナル日本史（浜島書店）			
科目の目標	<p>社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多目的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況

評価方法		○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度
年間指導計画				
期	考査範囲	学習内容	学習のねらい	
前期	第1回	○第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 ○第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府発足	○諸改革の意義とその影響を、雄藩の動きを前提として考察する。社会の変化に伴う文化の形成を理解する。 ○列強の動向に伴う、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して幕末を考察する。	
	第2回	○第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 ○第13章 近代国家の展開 1 日清日露戦争と国際関係 2 第一次大戦と日本 3 ワシントン体制	○明治政府の政治的改革及び、自由民権運動を通じた近代国家の形成過程を理解する。 ○日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。また、国際環境の推移を日本の立場に着目して理解する。 ○日清・日露戦争前後に資本主義国家の基礎が確立された過程、それに伴う国内の諸問題、大衆文化について理解する。	
後期	第3回	○第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 ○第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次大戦	○経済状況の変化が軍部の台頭につながったこと、平和で民主的な国際社会の実現の大切さを考える。	
	第4回	○第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 ○第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ ○第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	○戦後の世界秩序を踏まえ、地域と日本、世界の空間的な認識、政治経済・社会・文化・国際環境などの特色を理解する。	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	日本史探究（日本史探究β）	3	普通科	3
教材・副教材	詳説日本史（山川出版社） ゼミナル日本史（浜島書店）			
科目の目標	<p>社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多目的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況

評価方法		○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度
年間指導計画				
期	考査範囲	学習内容	学習のねらい	
前期	第1回	○第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 ○第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府発足	○諸改革の意義とその影響を、雄藩の動きを前提として考察する。社会の変化に伴う文化の形成を理解する。 ○列強の動向に伴う、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して幕末を考察する。	
	第2回	○第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 ○第13章 近代国家の展開 1 日清日露戦争と国際関係 2 第一次大戦と日本 3 ワシントン体制	○明治政府の政治的改革及び、自由民権運動を通じた近代国家の形成過程を理解する。 ○日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。また、国際環境の推移を日本の立場に着目して理解する。 ○日清・日露戦争前後に資本主義国家の基礎が確立された過程、それに伴う国内の諸問題、大衆文化について理解する。	
後期	第3回	○第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 ○第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次大戦	○経済状況の変化が軍部の台頭につながったこと、平和で民主的な国際社会の実現の大切さを考える。	
	第4回	○第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 ○第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ ○第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	○戦後の世界秩序を踏まえ、地域と日本、世界の空間的な認識、政治経済・社会・文化・国際環境などの特色を理解する。	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	日本史探究（日本史探究γ）	6	普通科	3
教材・副教材	詳説日本史（山川出版社）			
科目の目標	<p>社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多目的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代・推移・比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況

評価方法		○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度
年間指導計画				
期	考査範囲	学習内容	学習のねらい	
前期	第1回	○第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 ○第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 ○第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 ○第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	○人類文化の発生以後の動きを、考古学の分野、東アジア世界との交流と関連付け考える。 ○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から理解する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の変容を多角的・多面的に捉えて考察する。そのさい、国家仏教や東アジアとの関係に着目する。 ○摂関政治の成立とその特色・大陸文化の消化と末法思想を前提とした貴族文化の成立を理解する。武士の成長と荘園の拡大の関係を理解する。	
	第2回	○第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 ○第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化 ○第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 ○第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化 ○第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	○後三条天皇登場の背景を理解し、新たな院政を生み出したことを理解する。また、平氏政権の特色や院政との相違点を踏まえ時代を通観する。 ○鎌倉幕府の特徴を様々な史料の根拠を明確にして考察し、院政との相違を考え理解する。武士の成長、西国への発展を元寇による変化としてとらえる。 ○南北朝期の動乱から室町幕府成立の過程を、諸地域の動向を踏まえて理解し、庶民の台頭が社会秩序の変革の原動力として成長したことを考察する。 ○ヨーロッパ人の東アジア進出や、織豊政権の特色や意義を、世界史的背景を踏まえて考える。 ○江戸幕府の特徴を理解する。鎖国は単なる対外貿易の遮断ではないこと、町人の台頭が幕藩体制の動揺につながる背景となった点を理解する。	
後期	第3回	○第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 ○第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府発足 ○第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 ○第13章 近代国家の展開 1 日清日露戦争と国際関係 2 第一次大戦と日本 3 ワシントン体制	○諸改革の意義とその影響を、雄藩の動きを前提として考察する。社会の変化に伴う文化の形成を理解する。 ○列強の動向に伴う、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して幕末を考察する。 ○明治政府の政治的改革及び、自由民権運動を通じた近代国家の形成過程を理解する。 ○日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。また、国際環境の推移を日本の立場に着目して理解する。 ○日清・日露戦争前後に資本主義国家の基礎が確立された過程や国内の諸問題、大衆文化について理解する。	
	第4回	○第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 ○第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次大戦 ○第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 ○第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ ○第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	○経済状況の変化が軍部の台頭につながったこと、平和で民主的な国際社会の実現の大切さを考える。 ○戦後の世界秩序を踏まえ、地域と日本、世界の空間的な認識、政治経済・社会・文化・国際環境などの特色を理解する。	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	世界史探究（世界史探究a）		3	普通科	3
教材・副教材	詳説世界史（山川出版社）				
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりより社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力		
面 評	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	

	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	科学革命と啓蒙思想／産業革命 アメリカ合衆国の独立／フランス革命とナポレオンの支配 中南米諸国の独立／ウィーン体制 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	<ul style="list-style-type: none"> ○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○絵画や資料などの文化資料を読み解くことで、当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できるようにする。 ○同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係を理解できるように促す。
	第2回	アメリカ合衆国の発展／19世紀欧米文化 西アジア地域の変容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 第2次産業革命と帝国主義 列強の世界分割と列強体制の二分化 アジア諸国の変革と民族運動	
	第3回	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 第二次世界大戦／新しい国際秩序の形成	
後期	第4回	冷戦の展開／第三世界の台頭とキューバ危機 冷戦体制の動揺／産業構造の変容 冷戦の終結／今日の世界／現代文明の諸相 地球世界の課題の探究	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	世界史探究（世界史探究β）		3	普通科	3
教材・副教材	詳説世界史（山川出版社）				
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力		
面 評	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	

	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	科学革命と啓蒙思想／産業革命 アメリカ合衆国の独立／フランス革命とナポレオンの支配 中南米諸国の独立／ウィーン体制 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	<ul style="list-style-type: none"> ○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○絵画や資料などの文化資料を読み解くことで、当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できるようにする。 ○同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係を理解できるように促す。
	第2回	アメリカ合衆国の発展／19世紀欧米文化 西アジア地域の変容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 第2次産業革命と帝国主義 列強の世界分割と列強体制の二分化 アジア諸国の変革と民族運動	
	第3回	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 第二次世界大戦／新しい国際秩序の形成	
後期	第4回	冷戦の展開／第三世界の台頭とキューバ危機 冷戦体制の動揺／産業構造の変容 冷戦の終結／今日の世界／現代文明の諸相 地球世界の課題の探究	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	世界史探究（世界史探究γ）		6	普通科	3
教材・副教材	詳説世界史（山川出版社）				
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。	

	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
	評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度
年間指導計画				
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい	
前 期	第1回	文明の誕生 古代オリエント文明／南アジアの古代文明 中国の古代文明／南北アメリカ文明 中央ユーラシア（草原とオアシスの世界） 秦・漢帝国／中国の動乱と変容／東アジア文化圏の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 東南アジア世界の形成と展開 イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア人の都市国家／ローマと地中海支配 キリスト教の成立と発展 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 イスラーム教の諸地域への伝播・西アジアの動向	○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○絵画や資料などの文化資料を読み解くことで、当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できるようにする。	
	第2回	ヨーロッパ世界の形成／西ヨーロッパの封建社会 東ヨーロッパ世界の展開／西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 アジア諸地域の自立化と宋／モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆／清代の中国と隣接諸地域 オスマン帝国とサファヴィー朝・ムガル帝国の興隆 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ルネサンス／宗教改革／主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスの台頭／北欧・東欧の動向	○同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係を理解できるように促す。	
	第3回	科学革命と啓蒙思想／産業革命 アメリカ合衆国の独立／フランス革命とナポレオンの支配 中南米諸国の独立／ウィーン体制 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 アメリカ合衆国の発展／19世紀欧米文化 西アジア地域の変容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 第2次産業革命と帝国主義 列強の世界分割と列強体制の二分化 アジア諸国の変革と民族運動		
後 期	第4回	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 第二次世界大戦／新しい国際秩序の形成 冷戦の展開／第三世界の台頭とキューバ危機 冷戦体制の動揺／産業構造の変容 冷戦の終結／今日の世界／現代文明の諸相 地球世界の課題の探究		

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	地理特論（地理特論a）		1	普通科	3
教材・副教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図(帝国書院) 最新地理図表GEO（第一学習社） データブックオブザワールド(二宮書店)				
科目の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色の相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ○地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的にしようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 「地理探究」で学習した事項について、多種多様な資料やグラフなどを用いて、それらを読み取る能力を身につけ、世界や日本が抱える諸問題の個別性や共通性について理解を深める。 ○自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等に関する資料を読み取る活動を通して現代世界の特色を探る。 ○地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)に関する資料を読み取る活動を通して現代世界の特色を探る。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。 ○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。 ○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度の態度		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	自然環境 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	<p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○地理的な資料を生徒に提示し、それを読み解き、他者に発表する活動を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	資源と産業 農林水産業 食糧問題 エネルギー・鉱山資源 工業 第3次産業	
	第3回	交通・通信と観光、貿易 交通通信 観光 貿易と経済圏 人口、都市村落 人口 人口問題 村落と都市 都市居住問題	
後期	第4回	現代世界の諸地域 アジア アフリカ ヨーロッパ 北アメリカ 南アメリカ オセアニア	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	日本史特論（日本史特論a）	1	普通科	3
教材・副教材	自作プリント、詳説日本史（山川出版社）			
科目の目標	各時代の特色を示す資料から歴史に関わる情報を収集し読み取る能力を身に付ける。また、その活動を通して各時代の特色について多面的・多角的に考察しながら、構築した歴史観を表現する。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○日本史探究で学んだ知識をもとに、さまざまな史・資料を用いて、歴史に関わる事象について考察、構想したことを効果的に説明したり論述したりする力を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身に付ける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身に付ける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、ソウゴの関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考査範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○古代における中国との関係：漢書地理志・後漢書東夷伝・魏志倭人伝・高句麗好太王碑文・宋書倭国伝 ○大陸文化の伝来：①漢字の使用：江田船山古墳鉄刀銘・稲荷山古墳鉄剣銘 ②仏教伝来：日本書紀・上宮聖徳法王帝説・元興寺縁起 ○飛鳥の政治：憲法十七条・遣隋使 ○奈良時代の政治：改新の詔・令義解・三世一身法・墾田永年私財法・国分寺建立の詔・大仏造立の詔・蓄銭叙位令 ○平安時代の政治：徳政争論・健児の制・意見封事十二箇条・小右記・尾张国郡司百姓等解文・今昔物語集・菅家文草・延喜の荘園整理令・延久の荘園整理令・往生要集 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国の冊封体制がわが国に与えた影響を、文化の面も押さえながらさまざまな史料を比較・検討することにより考察する。 ○天皇を中心とした中央集権国家体制の基盤が作られたことを理解する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の変容を多角的・多面的に捉えて考察する。そのさい、国家仏教や東アジアとの関係にも着目する。 ○摂関政治の成立とその特色・大陸文化の消化と末法思想を前提とした貴族文化の成立を理解する。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○院政の開始と平氏政権：神皇正統記・保元物語・愚管抄・平家物語・福原遷都 ○鎌倉時代の政治・外交：①守護・地頭の設置・吾妻鏡・玉葉 ②承久の乱：神皇正統記 ③御成敗式目の制定：吾妻鏡 ④元寇：蒙古の牒状 ⑤永仁の徳政令：東寺百合文書 ⑥鎌倉新仏教 ⑦経済・交通：新編追加・庭訓往来 ○建武の新政と室町幕府：①建武の新政：梅松論・二条河原落書・建武式目 ②外交：天龍寺造営記録・善隣国宝記 ③荘園の変質：地頭の年貢未進・高野山文書・半済令・地頭請・下地中分 ④土一揆：大乘院日記目録・薩戒記・建内記・大乘院寺社雑事記・今堀惣村掟・蔭涼軒日録・応仁記 ⑤足輕の出現：樵談治要 ⑥分国法 ○近世の動き：①鉄炮記 ②太閤検地と刀狩り・身分統制令・バテレン追放令 ③江戸幕府の確立：武家諸法度・禁中並公家諸法度・本佐録・田畑永代売買禁令・分地制限令・慶安の触書・朱印船貿易・糸割符制度 ④鎖国令 	<ul style="list-style-type: none"> ○後三条天皇登場の背景を理解し、新たな院政を生み出したことを理解する。また、平氏政権の特色や院政との相違点を踏まえ時代を通観する。 ○鎌倉幕府の特徴を様々な史料の根拠を明確にして考察し、院政との相違を考え理解する。武士の成長、西国への発展を元寇による変化としてとらえる。 ○南北朝期の動乱から室町幕府成立の過程を、諸地域の動向を踏まえて理解し、庶民の台頭が社会秩序の変革の原動力として成長したことを考察する。 ○ヨーロッパ人の東アジア進出や、織豊政権の特色や意義を、世界史的背景を踏まえて考える。また、江戸幕府のさまざまな統制令を通して、江戸幕府の支配の特徴を考察する。
後期	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○幕政の改革：海舶互市新例・読史余論・相对済令・目安箱・上米令・足高の制・棄捐令・七分金積立・赤蝦夷風説考・異国船打払令・戊戌夢物語・株仲間解散令・人返し之法・上知令・海国兵談・経世秘策・自然真営道・夢の代 ○近代への道：①幕末と明治政府：日米和親条約・日米修好通商条約・②品江戸廻送令・大政奉還・王政復古の大号令・五箇条の誓文・廃藩置県・徴兵告諭・日露和親条約・樺太千島交換条約 ③自由民権運動：民撰議院設立建白書・立憲政体樹立の詔・国会開設の詔・保安条例・新聞紙条例・集会条例・讒謗律 ④大日本帝国憲法 ⑤日本の大陸政策：日朝修好条規・下関条約・ポーツマス条約 ⑥韓国併合 ⑦大正政変：桂太郎弾劾演説 ⑧思想：民本主義・天皇機関説 ⑨中国政策：二十一箇条・石井ランシング協定 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸改革の意義とその影響を、さまざまな史料を比較しながら考察する。その中で、庶民の台頭や雄藩の動きを前提として考察するなど社会の変化を理解する。 ○列強の動向に伴う、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して幕末を考察する。 ○明治政府の政治的改革及び、自由民権運動を通じた近代国家の形成過程を理解する。 ○日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。また、国際環境の推移を日本の立場に着目して理解する。 ○日清・日露戦争後に資本主義国家の基礎が確立された過程や国内の諸問題、大衆文化について理解する。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ⑩国際協調下の諸条約：四ヶ国条約・ワシントン海軍軍縮条約・九ヶ国条約・パリ不戦条約・ロンドン海軍軍縮条約 ⑪社会運動の弾圧：治安警察法・治安維持法 ⑫満州事変：リットン報告書・国際連盟の脱退（新聞記事） 二・二六事件趣意書 ⑬近衛内閣の諸政策：近衛声明・国家総動員法・日独伊三国軍事同盟 ⑭国際社会への復帰：サンフランシスコ平和条約・日ソ共同宣言 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヴェルサイユ体制の中、わが国がどのような方向性を示したのか、国内の二大政党の動きを踏まえて理解する。 ○戦時下および戦後のさまざまな史・資料を比較しながら、わが国の動向を理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	世界史特論（世界史特論a）		1	普通科	3
教材・副教材	詳説世界史（山川出版社）				
科目の目標	地域・時代ごとに様々な形で残されている資料に触れ、資料から様々な情報を読み取る活動を通して、歴史が資料を基にして叙述されていることを理解する。インターネットや翻訳資料を活用して世界史上の資料の内容・形状の多様さを知ると同時に、それらを文化遺産として保存・管理することの意義についても学ぶ。				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○歴史総合・世界史探究で培った学力の諸要素を継続的に伸ばしつつ、各自の興味・関心をもとに課題（問い）を設定し、探究サイクルを意識した問題演習・資料読解（情報の収集、整理・分析）を行い、各自の理解に応じてまとめ・表現する活動を行う。この活動を通じて自分の特長や可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越えて持続可能な世界の創り手となるための力を身に付けることを目指す。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせる分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○復習プリント ○小テスト ○発問評価	○資料読解 ○問題演習 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	【歴史総合における資料読解を実施：日本史との関わり中心に】 地図問題：アジア貿易と華僑／主な国・地域からの人口移動 ／前近代の日本の地理認知 図像資料：日本の初等教育／江戸の書店／伊万里焼とマイセン 焼／19世紀理想の女性像／文明化の使命／万国博覧会／ 明治天皇御真影／中国分割／ミュンヘン会談／日本の軍事行 動への非難／陸軍記念日／紅衛兵／高度成長とマスメディア グラフ資料：日本の綿糸／列強の軍備増強／世界恐慌と各国 の工業生産・失業率／戦前日本の資源輸入／自動車と家庭用 電気機器の普及	○「歴史総合」「世界史探究」での学習内容を踏まえ、新聞・ ニュースなどで見聞した事象、授業で扱った事象の中から見 いだした地球世界・地域・国などの課題について、① 5 W1H ②前提・枠組みの再定義 ③比較 ④推移 ⑤関 連づけ ⑥当事者視点 といった問いの型を参考に学習内 容のポイントを整理・分析する活動を通して、課題を設定す るための拡散的思考・収束的思考のプロセスに慣れ親しむ。 ○大学入試の過去出題傾向などを参考に選集した問題演 習・資料読解に取り組むにあたり、歴史的経緯を踏まえると ともに、類似と差異、背景や原因、影響や結果、展開や 変化（転換、画期）などに関わる視点に着目するよう助言 する。ある歴史的事象の原因や対応策について考察する際 には、その時代の人々にとってその事象がどのような意味を持 ち影響を及ぼすかという「当時の社会から未来をみようとす る」視点と、「今日から当時の社会を振り返る」視点とを併せ持 つ必要がある。上記のような意味において多面的・多角的な 視野をもとに、演習や読解に取り組むよう指導する。 ○問題演習を通じて取り組んだ主題を取り上げた論述問題に ついて各自でまとめ、相互に説明したり意見を聞いたりするこ とにより、考察、構想をより深める。その際、「論述が、これ までに学習した歴史の脈絡の中に適切に位置付けられ、よ りよい社会の展望を視野に入れるとともに、論理的になされ ているか」という観点で指導する。具体的には、①事象の要 因、関連、影響などが歴史的経緯の中で論証されていること ②現時点での自分の提言や願いが構想されていること ③事実に基づいて論理に整合性があるとともに、他者の見 解と自分の考察が区別して表現されていることを評価する。 ○歴史総合の学習の成果を踏まえ、世界の歴史の大きな枠 組みと展開について、日本の歴史と関連付けながら具体的 な考察ができるように指導を工夫することに留意する。
	第2回	【世界史探究の問題演習と資料読解とを並行して実施】 通信網と情報／歴史の見方・考え方を探究する（ペルシアをめぐる ギリシアの視点 キリスト教の視点）／イスラームであること（非 ムスリムとの共存「正統」とは ウンマ／バイユーのタピスリーを重 層的に読む／中華思想と冊封体制／印刷と火器の中国史	
	第3回	【世界史探究の問題演習と資料読解とを並行して実施】 銀と16世紀の世界貿易／近代世界システムの形成（オランダ イ ギリス）／ヨーロッパの進出と奴隷貿易／環大西洋革命（アメリカ 合衆国 フランス ラテンアメリカ）／ナショナリズム／自由貿易と保 護貿易／アジアの民族運動／ユダヤ人（歴史 迫害・差別 異 文化共生）／国際連合の歩み／福祉国家の形成・歩みと課題 ／原子力利用の歩みと課題	
後 期	第4回	【世界史探究の問題演習を実施】	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	倫理（倫理a）	2	普通科	3
教材・副教材	高等学校 倫理（第一学習社）			
科目の目標	<p>人間としての在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p> <p>○人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</p> <p>※人間としての在り方考え方についての見方・考え方 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて捉える。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能の習得を目指す。</p> <p>○自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的課題を解決するために倫理に関する概念や理論を活用し、論理的に思考する力や説明する力などを育成する。</p> <p>○人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉える。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組合せながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせる。</p> <p>○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けようとしている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○振り返りシート ○ワークシート ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 自己の心と自己形成 人間の存在や価値と宗教	人間の存在や価値に関わる基本的な課題について、心理学の考え方、古今東西の先哲の思想、宗教や芸術の意義、さまざまな人生観・倫理観・世界観を学習する。 国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を学習する。
	第2回	人間のあり方と社会 現代の人間と社会をとらえる思想	
	第3回	国際社会に生きる日本人としての自覚	
後 期	第4回	第2編 現代の諸課題と倫理 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	自然や科学技術に関する課題（生命、自然、科学技術）と、社会と文化に関する課題（福祉、文化と宗教、戦争と平和）などの倫理課題について、主体的に問いを立て、その問いを他者と共有し、思索を深めながら、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できるようになる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	政治経済（政治経済a）	2	普通科	3
教材・副教材	高等学校 政治・経済（第一学習社）			
科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 ○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平等と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。 <p>※公共における社会的な見方・考え方 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて捉える。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能の習得を目指す。 ○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論を活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握する力や説明する力、身に付けた判断基準を根拠に構想する力、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養成する。 ○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。 <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉える。 ○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組合せながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせる。 ○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を考察し、解決するための手掛かりとなる概念や理論について理解しようとしている。また、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめようとしている。	国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、説明するとともに、構想したことを議論することができる。	他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○振り返りシート ○ワークシート ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	○現代日本の政治経済の諸課題 第一章 日本国憲法と現代政治のあり方 日本国憲法と現代政治のあり方 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 市場経済の機能と限界	第1編の「現代日本の政治経済の諸課題」では、第一章で現代日本の政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習し、それを活用することにより現代日本の諸課題を探究する活動を行う。第二章では、自分の探究課題を決め、情報を収集し、読み取り、整理したうえで他者と議論する活動を行う。
	第2回	持続可能な財政および租税のあり方 金融を通じた経済活動の活性化 経済活動と福祉の向上 第二章 現代日本の諸課題の探究	
後 期	第3回	○グローバル化する国際社会の諸課題 第一章 現代の国際政治・経済 国際法の果たす役割 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 相互依存関係が深まる国際経済の特質	第2編の「グローバル化する国際社会」では、第一章では国際政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習する。第二章でそれを活用して国際社会の諸課題を探究する活動を行う。第2章では、自分の探究課題を決め、情報を収集し、読み取り、整理したうえで他者と議論する活動を行う。
	第4回	国際社会において求められる日本の役割 第二章 国際経済の諸課題の探究	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民科	現代探究（現代探究a）	1	普通科	3
教材・副教材	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標	金融や財政活動を通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より良い社会づくりに向けて行動できるようにする。また、少子高齢社会と社会保障、あるいは雇用と労働といった具体的な問題を扱いながら、個人として社会として豊かな生活を実現できるような視点を身につける。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉(人文系)授業です。</p> <p>○経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の動きと仕組み及び租税などの意義、金融の動きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</p> <p>○経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付けさせる。</p> <p>○市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を身に付けさせる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明できる力を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組み合わせながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代社会の諸課題の解決に向けて議論する力を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解することができる。また、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用することができる。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション ○簡易ディベート	○振り返りシート ○ワークシート ○授業参加の態度	

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	○主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済のしくみ 2 経済成長と国民福祉	○需要・供給の基本的な関係を理解したうえで、現実世界に起こる様々な出来事が需要・供給、さらには資源配分にどのような影響を与えるのか考察する。 ○経済の成長・発展を評価する諸指標について学び、現在の我が国及び諸外国の経済状況について、人口規模も考慮しながら比較する。 ○「豊かさ」について自分なりの観念をもち、そのもとで現在の我が国及び諸外国の社会状況について、主な経済指標をもとに考察を深める。
	第2回	○主題11 金融の働き 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義	○金融市場や中央銀行が経済にどのような役割を果たしているかについて理解し、生産者・消費者それぞれの立場から投資の意義を考える。 ○リスクとリターンについての理解を深め、投資をはじめとした資産形成の重要性を理解する。 ○少子高齢化が進む中、将来にわたって持続可能な財政活動とするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。
	第3回	○主題12 財政の役割と社会保障 1 人口減少社会 2 少子高齢社会 3 社会保障と国民福祉	○私たちがとりまく人口減少社会、少子高齢社会について、人間関係の絶対数と質の変化という視点で捉え、それに付随する諸問題について考察する。 ○社会の特徴と「自助・共助・公助」のバランスを照らし合わせながら、現在の日本社会が抱える財政上の問題を理解するとともに、他国の事例を参考にして望ましい社会保障の在り方について考える。
後期	第4回	○ケーススタディ1 生命倫理 1 生命の始まりと技術の介入 2 生命の終わりや技術の介入 ○導入1 公共的な空間と人間のかかわり 1 社会に生きる私たち 2 多様性と共通性 3 キャリア形成と自己実現 ○主題8 雇用と労働問題 1 働くということ 2 労働者の権利 3 今日の労働問題	○生命の始まり段階あるいは終わり段階において技術が介入することについて、「幸福、正義、公正」といった視点から考え、アサーティブな議論ができるようにする。 ○子どもから大人へと変化する過程で通る「青年期」の学習を通じて、青年期の特徴を理解する。そして欲求不満の状態にあるときでも自分を客観視し、望ましい適応行動を身につける。 ○他者と協働することの重要性を理解し、自立した主体としてのキャリアデザインができるようになる。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化がいつそう進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いか、キャリアビジョンとともに考える。また労働者の置かれた環境や労働問題の歴史を学ぶ中でよりよい働き方について探究する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	人口・食糧問題（人口・食糧問題）	1	普通科	3
教材・副教材	「公共」で使用した教科書、「地理総合」で使用した教科書			
科目の目標	世界的な課題である途上国の人口爆発や先進国における少子高齢化などの人口問題について、統計資料や地図を用いて検証し、理解を深める。また、食糧の生産と供給の仕組みや食糧需要の変化について、統計資料や地図を用いて理解を深め、将来予想される人口問題と食糧問題を相互に関連させながら考察する。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>①人口や食糧に関する諸課題の概要や地域的な差異を理解する。</p> <p>②人口や食糧に関する諸課題について自身の考えや意見を述べる。</p> <p>調べ学習とその発表の機会を多く取り入れることにより、自分の考えを表現する力を培う。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返すことにより、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	世界的な人口問題・食糧問題についての基本的な事柄を理解し、知識を身につけているか。	人口・食糧問題について世界的視野に立って多角的、多面的に考察しているか。国際社会の変化に的確に対応し、公正に判断しているか。	人口・食糧問題について関心をもってしているか。また、課題意識をもち、意欲的に追求しているか。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	(1) 人口の構成 (2) 発展途上国の人口問題 (3) 先進地域の人口問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○人口問題や食糧問題を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p> <p>○グループごとに1項目の発表を行い、他者の意見を聞くことにより自己の視野を広げる。</p>
	第2回	(4) 日本の人口問題 (5) 世界の民族問題 (6) グループ発表	
	第3回	(7) 世界の主要農産物 (8) 日本の農業	
後期	第4回	(9) 食糧問題と農産物貿易問題 (10) グループ発表	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学Ⅲ（数学Ⅲ）		3	普通科	3
教材・副教材	新編 数学Ⅲ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ	○微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。 ○導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それをを用いて関数が微分できるようにする。 ○導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。
	第2回	第2節 いろいろな応用 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分	○関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、点の運動や近似式についても理解し、導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。 ○様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。
	第3回	第2節 定積分 1. 定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. 定積分のいろいろな問題 第3節 積分法の応用 1. 面積 2. 体積 3. 道のり 4. 曲線の長さ	○様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。 ○定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。
後 期	第4回	問題演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着を図る。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学 B（数学 Ba）		1	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 B（数研出版） 3TRIAL 数学 B（数研出版）				
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート		○課題 ○行動観察 ○ワークシート

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散	○確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象に活用できるようにする。
	第2回	3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	
	第3回	第2節 統計的な推測 1. 母集団と標本 2. 標本平均の分布 3. 推定 4. 仮説検定	○母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推測、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。
後 期	第4回	問題演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学 B（数学 Bβ）	1	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 B（数研出版） 3TRIAL 数学 B（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散	○確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象に活用できるようにする。 ○母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推測、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。
	第2回	3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	
	第3回	第2節 統計的な推測 1. 母集団と標本 2. 標本平均の分布 3. 推定 4. 仮説検定	
後 期	第4回	問題演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学 C（数学 Ca）	1	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 C（数研出版） 3TRIAL 数学 C（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きさと向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式	○複素数平面において複素数の演算がどのように表現されるかを理解する。また、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。
	第2回	3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	
	第3回	第4章 式と曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線	○放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。
後 期	第4回	問題演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学 C（数学 Cβ）		1	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 C（数研出版） 3TRIAL 数学 C（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的，体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は，通期，習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで，授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し，まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し，対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では，学習したことを振り返り，繰り返し演習することで，知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し，思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し，統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し，数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて，粘り強く，柔軟に考え，その過程を振り返り，考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きさと向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式	<p>○複素数平面において複素数の演算がどのように表現されるかを理解する。また、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。</p> <p>○放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。</p> <p>○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。</p>
	第2回	3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	
	第3回	第4章 式と曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線	
後 期	第4回	問題演習	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	学科	年次
数学	数学特論 (数学特論a)	3	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 I (数研出版), 新編 数学 II (数研出版) 新編 数学 A (数研出版), 新編 数学 B (数研出版), 新編 数学 C (数研出版)			
科目の目標	教科「数学」の数学 I II ABC 各科目の学習の上に立ち、問題解決にあたって複眼的な視点を持ち、多面的なアプローチができるようになることを目指す。また、必要に応じ、各科目で学んだことを有機的に結び付け、総合的な手法により問題解決が出来るようになることを目標とする。さらに、興味・関心に応じて取り組む問題を自ら選び、考え、必要に応じて友人と討論したり、その思考結果や問題解決の方法を発表したりするなど言語活動の充実をはかり、論理的に考察する力や数学的な表現を適切に用いる力を身につけることを目指す。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○既習事項の発展的総復習 既習の数学の各分野について、発展的事項として教科書に採録されている内容を深め、総合的な視野に立ち復習し、より深い理解により総合的探究の基盤を作る。</p> <p>○問題への多面的なアプローチ ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の手法でアプローチできることを学ぶ。</p> <p>○問題への総合的なアプローチ ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の事項を有機的に結び付けて、ひとつの解法を見いだすことを学ぶ。</p> <p>○問題への協同的なアプローチ ひとつの問題を解決する過程で、グループ内で議論し、協同して問題解決に当たる方法を学ぶ。</p> <p>○大学入学共通テストを見据えたマーク演習</p> <p>○個別試験を見据えた大学入試問題解説及び演習</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後期	第4回	共通テスト対策問題解説及び演習	○実践的な問題を通して、共通テストに対応できる応用力を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)		単位数	学科	年次
数学	数学特論 (数学特論β)		3	普通科	3
教材・副教材	新編 数学 I (数研出版), 新編 数学 II (数研出版) 新編 数学 A (数研出版), 新編 数学 B (数研出版), 新編 数学 C (数研出版)				
科目の目標	教科「数学」の数学 I II ABC 各科目の学習の上に立ち、問題解決にあたって複眼的な視点を持ち、多面的なアプローチができるようになることを目指す。また、必要に応じ、各科目で学んだことを有機的に結び付け、総合的な手法により問題解決が出来るようになることを目標とする。さらに、興味・関心に応じて取り組む問題を自ら選び、考え、必要に応じて友人と討論したり、その思考結果や問題解決の方法を発表したりするなど言語活動の充実をはかり、論理的に考察する力や数学的な表現を適切に用いる力を身につけることを目指す。				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○既習事項の発展的総復習 既習の数学の各分野について、発展的事項として教科書に採録されている内容を深め、総合的な視野に立ち復習し、より深い理解により総合的探究の基盤を作る。</p> <p>○問題への多面的なアプローチ ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の手法でアプローチできることを学ぶ。</p> <p>○問題への総合的なアプローチ ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の事項を有機的に結び付けて、ひとつの解法を見いだすことを学ぶ。</p> <p>○問題への協同的なアプローチ ひとつの問題を解決する過程で、グループ内で議論し、協同して問題解決に当たる方法を学ぶ。</p> <p>○大学入学共通テストを見据えたマーク演習</p> <p>○個別試験を見据えた大学入試問題解説及び演習</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後 期	第4回	共通テスト対策問題解説及び演習	○実践的な問題を通して、共通テストに対応できる応用力を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学特講（数学特講a）	1	普通科	3
教材・副教材	3TRIAL 数学 I（数研出版），3TRIAL 数学 II（数研出版） 3TRIAL 数学 A（数研出版），3TRIAL 数学 B（数研出版），3TRIAL 数学 C（数研出版）			
科目の目標	下記の内容について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学のよさを認識できるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○数学の基礎を学んだ後、数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え、数列、ベクトル、統計的な推測について、初等幾何学やグラフのシミュレーションを交えて理解を深める。</p> <p>○大学入学共通テストを見据えたマーク演習</p> <p>○個別試験を見据えた大学入試問題解説及び演習</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後 期	第4回	共通テスト対策問題解説及び演習	○実践的な問題を通して、共通テストに対応できる応用力を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	学科	年次
数学	数学特講 (数学特講β)	2	普通科	3
教材・副教材	3TRIAL 数学 I (数研出版), 3TRIAL 数学 II (数研出版) 3TRIAL 数学 A (数研出版), 3TRIAL 数学 B (数研出版), 3TRIAL 数学 C (数研出版)			
科目の目標	下記の内容について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学のよさを認識できるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○数学の基礎を学んだ後、数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え、数列、ベクトル、統計的な推測について、初等幾何学やグラフのシミュレーションを交えて理解を深める。</p> <p>○大学入学共通テストを見据えたマーク演習</p> <p>○個別試験を見据えた大学入試問題解説及び演習</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後 期	第4回	共通テスト対策問題解説及び演習	○実践的な問題を通して、共通テストに対応できる応用力を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	物理（物理a）	3	普通科	3
教材・副教材	高等学校 物理（第一学習社）			
科目の目標	<p>物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方 観察・実験を通して、自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較や関係付けなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>第Ⅰ章 運動とエネルギー 日常生活における物体の運動についての観察・実験を通して、「物理基礎」で学んだ内容を発展させ、種々の運動にみられる法則性について理解するとともに、法則性について論理的に説明する力を培う。</p> <p>第Ⅱ章 波動 波動における観察・実験を行い、波の一般的な性質を理解するとともに、音波、光波のそれぞれに見られる特徴的な現象について考察する。</p> <p>第Ⅲ章 電気と磁気 電磁気における観察・実験を行い、電気と磁気のそれぞれの性質について理解する。また、電気と磁気の結びつきにふれるなかで、電磁波がどのように発生し利用されているのか調べるなど、身近な事例も交えて現象についての理解を深める。</p> <p>第Ⅳ章 原子 原子における観察・実験を行い、電子の発見や原子の構造の解明に至るまでの経緯を理解し、原子核の構成と性質などについて考察するなど、科学史の変遷にふれるなかで現在の物理学の成り立ちについて捉える能力を育成する。</p> <p>■ 未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○物体の衝突や波の性質を確認する実験などを行い、様々な物理現象の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○運動している物体や気体分子、光の実験のようすを図や矢印で表し、それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べるができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探究していく態度を育むことができる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○実験	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第I章 運動とエネルギー	①平面運動をする物体の変位、速度、加速度がベクトルで表されることを学習し、速度の合成、相対速度についても理解する。 ②力のモーメントとは何かを理解する。 ③運動量の性質を学習し、運動量と力積との関係について理解する。 ④円運動をする物体のようすを表す方法や、物体にはたらく力などを理解する。また、慣性力について理解する。 ⑤単振動をする物体のようすを表す方法や、物体にはたらく力などを理解する。 ⑥惑星の運動に関する法則や、万有引力の法則、万有引力による物体の運動について理解する。 ⑦気体について成り立つ法則を理解する。
	第2回	第II章 波動	①波の伝わり方（反射、屈折、回折）について、ホイヘンスの原理をもとに理解する。 ②身のまわりの現象と関連づけて、波としての音の性質（反射、屈折、回折、干渉）について理解する。 ③ドップラー効果について、観測者と音源が同一直線上を動く場合を中心に理解する。 ④波としての光の性質を学び、光の反射、屈折、分散、散乱、偏光について理解する。 ⑤光の回折と干渉に関する実験などを行い、回折と干渉について光波の性質と関連づけて理解する。
	第3回	第III章 電気と磁気	①電荷が相互におよぼしあう力について学習し、電場の表し方を理解する。 ②コンデンサーの性質を理解するとともに、電気容量を電場や電位差と関連づけて理解する。 ③キルヒホッフの法則にもとづき、複雑な回路を流れる電流について理解する。 ④電磁誘導に関する実験などを行い、磁束の変化と誘導起電力との関係を見出して理解する。 ⑤電磁波の性質とその利用について理解する。
後 期	第4回	第IV章 原子	①電子に関する歴史的な実験を通して、電子の電荷と質量について理解する。 ②光電効果の現象を通して、光の粒子性と波動性を学習し、X線回折やコンプトン効果についても理解する。 ③電子線の回折をもとにして、電子などの粒子の波動性について理解する。 ④原子の構造や、スペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する。 ⑤原子核の構成について学習し、原子核の崩壊や核反応について理解する。 ⑥素粒子の存在を知り、自然界にはたらく基本的な力について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理（物理β）		4	普通科	3
教材・副教材	高等学校 物理（第一学習社），サンダイヤル ステップアップノート物理 改訂版（啓林館），新課程 リードα 物理基礎・物理（数研出版），新課程 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理（数研出版）				
科目の目標	<p>物理的な事象・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方 観察・実験を通して，自然の事象・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較や関係付けなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>第Ⅲ章 電気と磁気 電磁気における観察・実験を行い，電気と磁気のそれぞれの性質について理解する。また，電気と磁気の結びつきにふれるなかで，電磁波がどのように発生し利用されているのか調べるなど，身近な事例も交えて現象についての理解を深める。</p> <p>第Ⅳ章 原子 原子における観察・実験を行い，電子の発見や原子の構造の解明に至るまでの経緯を理解し，原子核の構成と性質などについて考察するなど，科学史の変遷にふれるなかで現在の物理学の成り立ちについて捉える能力を育成する。</p> <p>■ 未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○箔検電器の実験やコンデンサーの性質を確認する実験などを行い，様々な物理現象の法則性を理解することができる。 ○キルヒホッフの法則などを用いて，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電流のまわりのできる磁場のようすの観察や光電効果の現象などを通して，式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べるができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探求していく態度を育むことができる。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験書 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題 		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位	①電荷が相互におよぼしあう力について学習し、電場の表し方を理解する。 ②電場と電位の関係を、静電気力による位置エネルギーと関連づけて理解する。 ③コンデンサーの性質を理解するとともに、電気容量を電場や電位差と関連づけて理解する。
	第2回	第Ⅲ章 電気と磁気 第2節 電流 第3節 電流と磁場	①電流や電気抵抗について、自由電子の運動と関連づけて理解する。 ②キルヒホッフの法則にもとづき、複雑な回路を流れる電流について理解する。 ③半導体の基本的な性質を踏まえ、pn接合の電流と電圧の特性について理解する。 ④電流のまわりのできる磁場のようすの観察などを通して、電流がつくる磁場について理解する。 ⑤電流が磁場から受ける力を表す式を扱い、平行電流がおよぼしあう力について理解する。 ⑥磁場中における荷電粒子の運動の観察などを通して、荷電粒子が磁場から受ける力について理解する。
	第3回	第Ⅲ章 電気と磁気 第4節 電磁誘導と交流	①電磁誘導に関する実験などを行い、磁束の変化と誘導起電力との関係を見出して理解する。 ②導体やコイルに生じる誘導起電力について理解する。 ③交流の発生について学習し、交流回路における抵抗、コイル、コンデンサーの性質を理解する。 ④電磁波の性質とその利用について理解する。
後 期	第4回	第Ⅳ章 原子 第1節 電子と光 第2節 原子と原子核	①電子に関する歴史的な実験を通して、電子の電荷と質量について理解する。 ②光電効果の現象を通して、光の粒子性と波動性を学習し、X線回折やコンプトン効果についても理解する。 ③電子線の回折をもとにして、電子などの粒子の波動性について理解する。 ④原子の構造や、スペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する。 ⑤原子核の構成について学習し、原子核の崩壊や核反応について理解する。 ⑥素粒子の存在を知り、自然界にはたらく基本的な力について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	化学（化学a）	3	普通科	3
教材・副教材	高等学校 化学（啓林館） セミナー-化学基礎+化学（第一学習社）			
科目の目標	<p>化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>○化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>I 物質の状態と平衡…物質の状態と平衡についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。1 物質の状態とその変化，溶液と平衡について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。2 物質の状態と平衡について，観察，実験などを通して探究し，物質の状態とその変化，溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>II 物質の変化と平衡…物質の変化と平衡についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。1 化学反応とエネルギー，化学反応と化学平衡について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。2 物質の変化と平衡について，観察，実験などを通して探究し，化学反応とエネルギー，化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>III 無機物質の性質…無機物質の性質についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。1 無機物質について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。2 無機物質について，観察，実験などを通して探究し，典型元素，遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>IV 有機化合物の性質…有機化合物の性質についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。1 有機化合物，高分子化合物について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。2 有機化合物，高分子化合物について，観察，実験などを通して探究し，有機化合物，高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して，化学の特徴について理解するとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○定期考査 ○観察・実験	○小テスト ○課題	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	I 物質の状態と平衡 1 物質状態 2 気体の性質 3 固体の構造 4 溶解平衡 5 溶液とその性質	○物質の状態とその変化，溶液と平衡について，左記の内容を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	II 物質の変化と平衡 1 化学反応と熱・光 2 電池 3 電気分解 4 反応速度 5 化学平衡とその移動 6 電離平衡	○化学反応とエネルギー，化学反応と化学平衡について，左記の内容を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
	第3回	III 無機物質の性質 1 典型元素 2 遷移元素	○無機物質について，左記の内容を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
後期	第4回	V 有機化合物の性質 1 炭化水素 2 官能基をもつ化合物 3 芳香族化合物 4 合成高分子化合物 5 天然高分子化合物	○有機化合物，高分子化合物について，左記の内容を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	化学（化学β）		5	普通科	3
教材・副教材	高等学校 化学（啓林館） セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）				
科目の目標	<p>化学的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>○化学的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事象・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>I 無機物質の性質 無機物質の性質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>1 無機物質について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>II 有機化合物の性質 有機化合物の性質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>1 有機化合物、高分子化合物について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>2 有機化合物、高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現すること。</p> <p>III 化学が果たす役割 化学が果たす役割について、次の事項を身に付ける。</p> <p>1 化学が果たす役割を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解する。</p> <p>2 人間生活の中の化学について、これからの社会における化学が果たす役割を科学的に考察し、表現する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○定期考査 ○観察・実験	○小テスト ○課題		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	I 無機物質 1 周期表と元素 2 非金属元素の単体と化合物 3 典型金属元素の単体と化合物 4 遷移元素の単体と化合物 5 金属イオンの分離と確認	○無機物質の性質と利用について理解する。
	第2回	II 有機化合物 1 有機化合物の特徴と構造 2 炭化水素 3 アルコールと関連化合物	○有機化合物の構造と反応, 官能基をもつ化合物の性質について理解する。
	第3回	II 有機化合物 4 芳香族化合物	○芳香族化合物の構造と反応, 官能基をもつ化合物の性質について理解する。 ○高分子化合物の構造や利用について理解する。
後期	第4回	III 高分子化合物 1 高分子化合物とは何か 2 天然高分子化合物 3 合成高分子化合物 IV 化学が果たす役割 1 化学的性質の利用と工業的製法 2 未来を創る化学	○身の回りの生活や未来の社会において化学が果たすべき役割について考えることができる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物（生物a）		3	普通科	3
教材・副教材	生物（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）				
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 ※ 理科の見方・考え方 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 ○生物の進化について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現する。 ○生命現象について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現する。 ○遺伝情報の発現と発生について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、遺伝子発現の調節の特徴を見いだして表現する。 ○生物の環境応答について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、環境変化に対する生物の特徴を見いだして表現する。 ○生態と環境について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生物現象についての観察、実験を通して、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験、調査等に関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に、問題を見いだすための観察、実験、調査及び、報告書の作成・発表などを行うことにより、科学的に探究する力が身に付いている。	生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。生命を尊重し、環境の保全に寄与する態度や自然の事物・現象を考察しようとする態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の多様性と共通性, 原始地球と有機物の生成有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 真核生物の出現について理解する。 ○細胞を構成する物質, 原核細胞と真核細胞の構造真核細胞の構造と機能, 生体膜の構造について理解する。 ○生物とエネルギー, 生体内の化学反応について理解する。 ○発生の過程で遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 ○遺伝子を扱うさまざまな技術について, その原理を理解しそのことが私たちの生活に与える影響を理解する。 ○動物の行動は, 遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。
	第2回	第2章 細胞と分子 第3章 代謝	
	第3回	第4章 遺伝情報の発現と発生 第5章 動物の反応と行動	
後 期	第4回	第6章 植物の環境応答 第7章 生物群集と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ○植物は, 周囲の環境の変化を感知して, 自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。 ○生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており, 個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 ○生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物（生物β）		4	普通科	3
教材・副教材	生物（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）				
科目の目標	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。 ※ 理科の見方・考え方 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。				
講座内容	※この授業は，通期，一斉授業です。 ○生物の環境応答について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ，観察，実験を通して探究し，環境変化に対する生物の特徴を見いだして表現する。 ○生態と環境について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ，観察，実験を通して探究し，生態系における，生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生物現象についての観察，実験を通して，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究するために必要な観察，実験，調査等に関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に，問題を見いだすための観察，実験，調査及び，報告書の作成・発表などを行うことにより，科学的に探究する力が身に付いている。	生物現象に主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。生命を尊重し，環境の保全に寄与する態度や自然の事物・現象を考察しようとする態度が身につけている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第5章 動物の反応と行動	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。 ○ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。 ○ヒトの神経系が末梢神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。 ○効果期である筋肉の構造を理解する。神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。 ○動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。
	第2回	第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答	
	第3回	第6章 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> ○植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。 ○植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみとその意義を理解する。 ○植物の成長は、光や重力などの要因によって調節され、さまざまな植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。 ○植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。 ○植物が、環境要因の変化に応じて気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。 ○被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。
後期	第4回	第7章 生物群集と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ○個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。 ○同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。さらに個体群内の個体どうしの間でどのような関係が見られるか理解する。 ○生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 ○上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量に限りがあることを理解する。また、生態系における物質の循環とエネルギーの移動についてそれぞれの特徴を理解する。 ○生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理基礎研究（物理基礎研究a）		1	普通科	3
教材・副教材	高等学校 物理基礎（第一学習社）				
科目の目標	<p>1 「物理基礎」で学習した物理現象を更に広範囲に扱うことで、物理が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物理的な事物・事象への関心を高める。</p> <p>2 目的意識を持って観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。</p> <p>3 物理の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。</p> <p>4 実験・観測、グループ討議での意見交換を行った上で、レポート作成や発表能力（プレゼンテーション能力）を身につける。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>1 電気と磁気</p> <p>○電気や磁気のような物理現象について、実験・観察などを通して理解を深めるとともに、磁石に対する様々な物質の反応を調べ、身近に磁性が用いられる事例について見つけ、仕組みを理解する。</p> <p>○電磁誘導の法則について理解するとともに、風力発電機の作成などを通して、学習した法則が日常生活においてどのように活用されているのか、具体例を用いて探究する。</p> <p>2 光の科学</p> <p>○光の速さの測定や偏光に関する実験・観察などを通して、身近な存在である光について自然法則の理解を深める。</p> <p>○光電効果に関する実験などを通して、光を粒子として捉える能力を身につける。</p> <p>3 探究活動</p> <p>1・2の内容で興味関心を持った現象について自主的にテーマを選び、その内容について個人研究を行い、発表することで、日常生活に関連した現象・事物を科学的に探究する。</p> <p>■ 未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○実験などを行い、様々な運動の法則性を理解することができる。</p> <p>○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○運動している物体のようすを図や矢印で表し、それらから式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引き起こされるかを問い、探求していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>		

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	1. 電気と磁気 (ア) 磁気力	○磁化, 強磁性体, 常磁性体, 反磁性体, 双極子, 磁区について理解させる。 ○磁化についての実験を行わせる。(相互作用型演示実験による)
	第2回	1. 電気と磁気 (イ) 電磁誘導 2. 光の科学 (ア) 光の速さ	1. (イ) 電磁誘導 ○ファラデーの電磁誘導の法則を理解させる。 ○風力発電機作成コンテストを行わせる。 (限られた材料を用いて, より発電効率の大きい発電機の作成を競わせる) 2. (ア) 光の速さ ○光の反射, 屈折, 回折, 干渉について理解させる。 ○光の速さの測定の歴史について考えをまとめさせる。 ○光の速さの測定実験を行わせる。
	第3回	2. 光の科学 (イ) 光の偏光 (ウ) 光電効果	(イ) 光の偏光 ○縦波と横波, 電磁波について理解させる。 ○可視光線や電波の偏光について理解させる。 ○偏光に関わる実験を行い, 現象についてまとめさせる。 (ウ) 光電効果 ○光の波動性と粒子性について理解させる。 ○紫外線とX線の光電効果の実験を行わせる。
後 期	第4回	3. 探究活動 (ア) 個人研究	○電気と磁気, 光の科学の中からテーマを選び, 個人研究を行わせる。 ○個人研究の結果をレポートにまとめ, 口頭発表を行い, 質問や相互評価も行わせる。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	化学基礎研究（化学基礎研究a）	2	普通科	3
教材・副教材	i版化学基礎（啓林館） セミナー化学基礎（第一学習社）			
科目の目標	<p>物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>○物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>			
講座内容	<p>※ この授業は通期，一斉授業です。</p> <p>I 物質の変化とその利用</p> <p>物質の変化とその利用についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。</p> <p>1 物質と化学反応式，化学反応，化学が拓く世界について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 物質の変化とその利用について，観察，実験などを通して探究し，物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して，化学の特徴について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○定期考査 ○観察・実験	○小テスト ○課題	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Ⅲ 物質の変化 2 酸と塩基	○酸・塩基の性質・反応について理解する。身の回りにある酸・塩基やその利用法について学ぶ。
	第2回	Ⅲ 物質の変化 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	○酸化還元反応について理解する。身の回りにある酸化還元反応を利用した製品について学ぶ。 ○既習内容の理解を深める。
	第3回	演習	○既習内容の理解を深める。
後期	第4回	演習	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物基礎研究（生物基礎研究a）		1	普通科	3
教材・副教材	高等学校 生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） リードa生物基礎（数研出版）				
科目の目標	1. 「生物基礎」で触れていない生命現象を更に深め、広範囲・総合的に扱うことで生物が日常生活や社会の中でどのように関連しているかを知り、生物学的な事物・事象への関心を高める。 2. 生物の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 3. 目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。 4. 実験・観察、グループ討議での意見交換を行った上で、レポート作成や発表能力を身につける。				
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 1. 生命現象にかかわる物質 生命現象の中心的な役割を担う「タンパク質」や「エネルギーの流れ」を総合的に扱い、身近なものとしての理解を深める。 （いろいろなタンパク質の働き、微生物の発酵、光合成色素の分離など） 2. 生物の環境応答 生物と光・温度など様々な環境要因に対する反応を動物と植物について扱う。 （植物の生育と光、光屈性と花芽形成、動物の光走性と視覚器など） 3. 探究活動 学習した内容の中から、興味関心を持ったことについて自主的にテーマを選びその内容についてグループ研究を行う。 <u>内容の取り扱い</u> 1. できるだけ観察・実験を取り入れて、生物及び生命現象に対する興味・関心及び理解を深めさせる。 2. 学習内容と日常生活との関連を重視し、最新の研究分野についても触れる。 3. 探究活動は、数人のグループ単位で行い、グループ内討議、レポート作成、プレゼンテーション能力を身につけさせる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究に必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探究していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	分野別問題演習（生物の特徴）	生物の多様性と共通性についての問題演習をすることで、その共通性が共通の起源をもつことに由来することをより深く理解する。
	第2回	分野別問題演習（遺伝子とそのはたらき）	遺伝子の本体である DNA についての問題演習をすることで、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことをより深く理解する。
	第3回	分野別問題演習（ヒトの体内環境の維持）	多細胞生物における恒常性に関する問題演習をすることで、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系・免疫などのはたらきをより深く理解する。
後期	第4回	分野別問題演習（生物の多様性と生態系） 共通テスト対策問題演習	地球上に見られるさまざまなバイオームに関する問題演習をすることで、人類が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどをより深く理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	環境科学（環境科学a）	3	普通科	3
教材・副教材	高等学校 生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社）			
科目の目標	我々を取り巻く環境についての観察，調査等を行い，環境に関する基礎的な知識を習得させ，環境および環境学習についての興味・関心を高めるとともに，科学的思考力と問題解決能力を育成する。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>1 環境学習 （ア）環境学習とは何か 環境のとらえ方，環境学習とは何か，環境学習の進め方，環境を学ぶことで期待されていること，などを理解する。</p> <p>2 環境と生物 （ア）環境と人間生活 地域環境の観察や統計資料の調査・地球環境に関する衛星情報や統計資料による具体的な事例を通して，森林などの生態系，その物質循環や環境と人間の相互関係を理解し，生態系は多様な生物の共生と物資循環によって維持させていることを認識し，環境と環境学習に関心を持ち，自ら考え判断し，主体的に行動できる力を育成する。</p> <p>（イ）環境の調査 地域の植生，土壌，生き物，大気，水質などの観察や調査の学習を通して，環境要因や環境調査に対する基礎的な知識と技術を習得し，地域の環境要因や環境調査の方法を体験的に理解する。</p> <p>3 環境と地域 （ア）環境の保全と創造 森林，農村，河川，とその流域，都市といったそれぞれ異なる地域において，自然環境が人間の営みを通して変容してきた実態を理解するとともに，第3章で調査した環境の要素がお互いに関連し合っ地域環境を形成していることを理解する。そして，身近な野生生物の分布や生態を通して問題点を具体的に捉え改善策を探ることによって，地域環境を主体的に保全し改善しようとする意欲と態度，能力を身につける。</p> <p>4 発表 <u>内容の取り扱い</u> 環境問題の原因を探り，そのために必要な観察や実験実習を習得，学習するとともに問題点を改善する能力を養う。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	自然環境と人間との関わりについて理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然環境について，問題を見いだし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	自然環境に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		I オリエンテーション II 観察学習	○環境学習とは何か。環境学習の内容・目的を理解を深める。 ○環境と人間生活の係わりを、身近な地域環境の観察を通じて学習する。環境と人間生活が切り離すことのできない関係であることを理解する。
後 期	第4回	III 野外調査 IV 調査発表	○校内のいろいろな場所で、環境調査の方法論を、実践を通じて理解を深める。 ○環境の保全と創造について、各自に与えられたテーマを研究し、その成果を発表することで理解を深める。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	環境科学（環境科学β）	2	普通科	3
教材・副教材	高等学校 生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社）			
科目の目標	我々を取り巻く環境についての観察，調査等を行い，環境に関する基礎的な知識を習得させ，環境および環境学習についての興味・関心を高めるとともに，科学的思考力と問題解決能力を育成する。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>1 環境学習 （ア）環境学習とは何か 基本的な環境のとらえ方，環境学習とは何か，どのように環境学習を進めるか，環境を学ぶことによって何が期待されているか，などを理解する。</p> <p>2 環境と生物 （ア）環境と人間生活 地域環境の観察や統計資料の調査・地球環境に関する衛星情報や統計資料による具体的な事例を通して，森林などの生態系，その物質循環や環境と人間の相互関係を理解させ，生態系は多様な生物の共生と物質循環によって維持させていることを認識し，環境と環境学習に関心を持たせ，自ら考え判断し，主体的に行動できる力を育成する。</p> <p>（イ）環境の調査 地域の植生，土壌，生き物，大気，水質などの観察や調査の学習を通して，環境要因や環境調査に対する基礎的な知識と技術を習得させ，地域の環境要因や環境調査の方法を体験的に理解する。</p> <p>3 環境と地域 （ア）環境の保全と創造 森林，農村，河川，とその流域，都市といったそれぞれ異なる地域において，自然環境が人間の営みを通して変容してきた実態を理解するとともに，第3章で調査した環境の要素がお互いに関連し合っ地域環境を形成していることを理解する。そして，身近な野生生物の分布や生態を通して問題点を具体的に捉え改善策を探ることによって，地域環境を主体的に保全し改善しようとする意欲と態度，能力を身につける。</p> <p>4 発表 <u>内容の取り扱い</u> 環境問題の原因を探り，そのために必要な観察や実験実習を習得，学習するとともに問題点を改善する能力を養う。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	自然環境と人間との関わりについて理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然環境について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	自然環境に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		I オリエンテーション II 観察学習	○環境学習とは何か。環境学習の内容・目的を理解を深める。 ○環境と人間生活の係わりを、身近な地域環境の観察を通じて学習する。環境と人間生活が切り離すことのできない関係であることを理解する。
後 期	第4回	III 野外調査 IV 調査発表	○校内のいろいろな場所で、環境調査の方法論を、実践を通じて理解を深める。 ○環境の保全と創造について、各自に与えられたテーマを研究し、その成果を発表することで理解を深める。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	体育（体育）	2	普通科	3
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整え体力の向上を図る。 ○「体育理論」では、体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。 ○選択制授業では、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）・体育館シューズ・グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：chromebook や iPad などの ICT ツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話が生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。 ○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。 ○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。 ○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		体づくり運動 ダンス	
後期		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語	英語コミュニケーションⅢ（英語コミュニケーションⅢ，英語コミュニケーションⅢB）		文6	普通科	3
教材・副教材	LANDMARK English CommunicationⅢ(啓林館) 真・英文法大全(KADOKAWA)				
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動は、次のとおり。</p> <p>日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に考えを表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、読解問題などに自主的に取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れています。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定等でより上位の級の合格を目指す。 				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力		情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト		○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Tips for Discussing a Topic Lesson 1 Incredible Edible	<p>○英語を理解し英語で表現する態度や能力を養う。</p> <p>○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。</p> <p>○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。</p> <p>○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず表現できるように徹底的に復習する。</p>
	第2回	Lesson 2 Blood is Blood Lesson 3 Saving Our Treasures from the Sea	
	第3回	Lesson 4 Men's Brains vs. Women's Brains Lesson 5 Political Correctness Reading 1 The Tablecloth Lesson 6 Jose Mujica: The World's Poorest President Lesson 7 Where Did Dogs Come from?	
後期	第4回	Lesson 8 The Story of My Life Lesson 9 Extinction of Languages Lesson 10 Light Pollution Reading 2 They Are Us	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語	英語コミュニケーションⅢ（英語コミュニケーションⅢ）		理 4	普通科	3
教材・副教材	LANDMARK English CommunicationⅢ(啓林館) 真・英文法大全(KADOKAWA)				
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に考えを表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、読解問題などに自主的に取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れています。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定等でより上位の級の合格を目指す。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Tips for Discussing a Topic Lesson 1 Incredible Edible	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず表現できるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 2 Blood is Blood Lesson 3 Saving Our Treasures from the Sea	
	第3回	Lesson 4 Men's Brains vs. Women's Brains Lesson 5 Political Correctness Lesson 6 Jose Mujica: The World's Poorest President Lesson 7 Where Did Dogs Come from?	
後期	第4回	Lesson 8 The Story of My Life Lesson 9 Extinction of Languages Lesson 10 Light Pollution	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
外国語	論理・表現Ⅲ（論理・表現Ⅲ）	2	普通科	3
教材・副教材	MY WAY Ⅲ（三省堂） 真・英文法大全(KADOKAWA)			
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやりとりができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。 <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定されたテーマ・課題に対して、ペアワーク・グループワークを通して、互いに質問や意見交換を行うことで内容理解を深化させるとともに、聞き手や目的を意識して簡潔に話したり、書いたりする活動に積極的に取り組みます。 ○教科書の本文を利用して、「書く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」活動の基礎となる文法事項や語彙、表現を学習するとともに、それらを目的や場面、状況等に応じて活用できるようにします。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れていきます。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定等でより上位の級の合格を目指す。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	各トピックの内容や各文法事項の用法を理解している。 各文法項目をタスクの中で適切に使う技能を身につけている。	場面・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理的に詳しく話したり書いたりしている。	学習した表現を活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。 自分の発言や書いたりしたものを振り返ろうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Unit 1 資料・説明を理解して表現しよう Lesson 1 Survey Result Lesson 2 Writing an Email Lesson 3 Writing a Blog Lesson 4 Describing Activities Lesson 5 Suggesting What to Buy	<p>○英語を理解し英語で表現する態度や能力を養う。</p> <p>○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。</p> <p>○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。</p> <p>○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず表現できるように徹底的に復習する。</p>
	第2回	Lesson 6 Making a Proposal Lesson 7 Making a Speech Lesson 8 Writing an Invitation Lesson 9 Suggesting a Solution Lesson 10 Talking about the Future	
	第3回	Unit 2 日常会話を理解して表現しよう Lesson 1 At the Airport Lesson 2 Homestay Lesson 3 Gifts from Japan Lesson 4 Lost Items Lesson 5 Scheduling a Meeting	
後期	第4回	Lesson 6 Visitor Information Center Lesson 7 At a Restaurant Lesson 8 At the Doctor's Office Lesson 9 Buying a Ticket Lesson 10 At a Café	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
情報	情報活用（情報活用）	2	普通科	3
教材・副教材	高校情報 I Python（実教出版） ベストフィット 情報 I（実教出版） 進研 WINSTEP 情報 I（ラーズ）			
科目の目標	教科「情報」の情報 I の学習の上に立ち、問題解決にあたって複眼的な視点を持ち、多面的なアプローチができるようになることを目指す。また、必要に応じ、各科目で学んだことを有機的に結び付け、総合的な手法により問題解決が出来るようになることを目標とする。さらに、興味・関心に応じて取り組む問題を自ら選び、考え、必要に応じて友人と討論したり、その思考結果や問題解決の方法を発表したりするなど言語活動の充実をはかり、論理的に考察する力や情報活用能力を適切に用いる力を身につけることを目指す。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>既習の情報の各分野について、発展的事項として教科書に採録されている内容を深め、総合的な視野に立ち復習し、より深い理解により総合的探究の基盤を作り、ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の手法でアプローチできることを学ぶ。</p> <p>ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の事項を有機的に結び付けて、解法を見いだすことを学ぶだけでなく、問題を解決する過程で、グループ内で議論し、協同して問題解決に当たる方法を学ぶ。</p> <p>場面に応じて、学んだ結果を多くの人の前で発表し、思考結果や問題解決の方法などを、筋道を立て人に伝える力をつける。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。</p> <p>○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けている。</p> <p>○情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。</p>	<p>○情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出している。</p> <p>○問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。</p>	<p>○情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとしたり、情報セキュリティを確保しようとしていたりして、情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○授業での活動</p> <p>○提出物</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○授業での活動</p> <p>○提出物</p>	<p>○実習</p> <p>○授業での活動</p> <p>○提出物</p>	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	情報 I の発展的復習	○既習の内容を基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。
	第2回	問題への多面的アプローチ	○ひとつの問題への多面的アプローチ 情報社会における課題を分析し、シミュレーションなどを活用した解決方法を学ぶ。また、情報の特性を理解し、適切なデザインと表現方法で効果的に伝える力を身に付ける。
	第3回	問題への総合的アプローチ	○ひとつの問題への総合的アプローチ コンピュータの基本構造を理解し、プログラミングの基礎を学ぶことで問題解決能力を培う。また、情報通信ネットワークとデータの活用方法を学ぶ。
後期	第4回	問題への協同的アプローチ 探究結果のプレゼンテーション	○少人数のグループに分かれ、議論を重ねながら問題解決に取り組む。そのことによって他者と協同して問題解決ができる力を身に付ける。 ○解決した問題について発表させ、自分の考えを多くの人に伝える力を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
情報	情報Ⅱ（情報Ⅱβ）		2	普通科	3
教材・副教材	高校情報Ⅱ（実教出版）				
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 ○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。 ○情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報に関する科学的な見方・考え方について、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>この科目は、情報Ⅰの次のステップであり、情報Ⅰは課題を解決する手がかりを学ぶのに対して、情報Ⅱでは具体的な解決方法を学ぶ。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的に理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けている。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	第1章 情報社会 第2章 データサイエンス	<p>○情報技術の発展による人や社会への影響に着目し、情報社会の進展と情報技術の関係を歴史的に捉え、将来の情報技術を展望する活動を通して将来の情報技術と情報社会の在り方等について討議し発表し合う活動を通して情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する力を養う。</p> <p>○多様かつ大量のデータを活用することの有用性に着目し、データサイエンスの手法によりデータを分析し、その結果を読み取り解釈する活動を通して目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解する力を養う。</p>
	第3回	第3章 プログラミング言語	<p>○実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報システムの制作によって課題を解決したり新たな価値を創造したりする力を養う。</p>
後期	第4回	第4章 情報システム	<p>○情報システムの設計とプログラミングに関わろうとする態度、自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度、自らの問題解決の過程を振り返り、改善・修正しようとする態度、情報セキュリティなどに配慮しようとする態度を養う。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭	生活教養（生活教養a）	2	普通科	3
教材・副教材	最新版 楽しく学べるマナーの基本			
科目の目標	家庭や社会における基本的なマナーを習得させ、実社会の中で活用できる能力を身につけさせる。また生活の質の向上を目指して自らの生活を見つめ創造する能力と実践的な態度を育てる。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>人として必要な常識・マナーについて、実習を多く取り入れ体験的に習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事のマナー ○美しい立ち振る舞いと身だしなみ ○冠婚葬祭の常識とマナー ○お祝いと贈り物のマナー ○人付き合いのマナー ○手紙の常識とマナー ○茶道の心得 <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：社会生活に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 高い志で挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	家庭や社会における基本的なマナーを体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	家庭や社会に関する基礎的・基本的な理論とマナーを理解し、社会生活を合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	家庭や社会における基本的なマナーを活かし主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	<p>食事のマナー 美しい立ち振る舞いと身だしなみ 挨拶 姿勢 歩き方 優雅な所作 お辞儀の仕方 部屋の中での立ち振る舞い</p> <p>冠婚葬祭の常識とマナー 結婚のマナー 葬儀のマナー</p> <p>お祝いと贈り物のマナー 慶弔の袋の表書き 祝儀袋の書き方 お祝い品の贈り方 お中元・お歳暮の贈り方 人生の祝い事 大字, のし袋, 表書き</p>	<p>○家庭や社会における基本的なマナーを習得させ、実社会の中で活用できる能力を身につけさせ、生活の質の向上を目指して自らの生活を見つめ創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。</p>
後期	第4回	<p>人付き合いのマナー 手紙の常識とマナー 正しい敬語の使い方 電話の基本マナー 人を紹介するときの基本マナー 訪問するときのマナー おもてなしのマナー 頭語と結語 時候の挨拶 手紙の書き方</p> <p>茶道の心得 日本の伝統文化 茶道の歴史・マナー 茶をたてる</p>	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
情報	コンテンツの制作と発信（コンテンツの制作と発信a）		2	普通科	3
教材・副教材					
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、コンテンツの制作と発信に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○情報社会におけるコンテンツの制作と発信に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○情報社会で必要とされるコンテンツの創造を目指して自ら学び、コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報に関する科学的な見方・考え方について、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンテンツが情報社会のなかで果たす役割や及ぼす影響について学ぶ ○静止画のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ ○動画のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ ○音・音声のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ ○コンテンツの発信に関する課題を発見し、コンテンツの発信に関する知識と技術を活用し課題を解決する方法を学ぶ <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力 情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力 様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力 ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けている。情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしている。問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとしたり、情報セキュリティを確保しようとしていたりして、情報社会に主体的に参画しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	○情報社会とコンテンツ	情報社会の中でコンテンツが果たす役割を理解し、様々な情報の表現形式を扱うための基本的な知識や技術を身に付けるとともに、情報産業に携わる者として、コンテンツが情報社会の中で果たす役割や及ぼす影響について考え、コンテンツの制作と発信に取り組む意識と意欲を高めることができるような態度を育む。
	第3回	○静止画のコンテンツ ○動画のコンテンツ ○音・音声のコンテンツ	静止画のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、静止画のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養うとともに、静止画のコンテンツの制作に取り組む意識と意欲を高めることができる力を養う。 動画のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、動画のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養う。 音・音声のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、音・音声のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養う。
後期	第4回	○コンテンツの発信	コンテンツの発信に関する知識と技術を身に付け、コンテンツの発信に関する課題を発見、解決する力を養う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
体育	スポーツ概論（スポーツ概論a）		3～4	普通科	3
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）				
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。</p> <p>○スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>○生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。</p> <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○各単元において、できるだけ身近で考えやすい話題に触れて、課題解決に向けて主体的に活動に取り組むとともに基礎的な知識を理解し、スポーツ活動に生かそうとする力を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展 幅広い観点から「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な姿を学ぶ。 2 スポーツの効果的な学習の仕方 技術の特徴、健康安全を確保など様々な観点から運動やスポーツの効率的な学習の仕方を学ぶ。 3 豊かなスポーツライフの設計と仕方 各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方、計画の立て方、意思決定などを学ぶ。 4 スポーツの多様な指導法と健康・安全 対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を学ぶ。 5 スポーツの企画と運営 スポーツ大会などのプログラムを企画する手順や運営の仕方を学ぶ。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話が生まれ、協働した活動を行うことができる。</p> <p>○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。</p> <p>○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	スポーツを推進及び発展するための事項を理解し、それに必要な技能を身につけている。	スポーツを推進及び発展していく中での課題解決に向けて思考し判断することができる。また、他者に向けて自分の考えを伝えることができる。	スポーツの推進及び発展に向けて他者と協力し、課題解決に向けて主体的に活動に取り組むことができる。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など	○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など	○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
体育	スポーツⅡ（スポーツⅡα）	3～6	普通科	3
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。 ○球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ○球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 球技については、「ゴール型球技」「ネット型球技」「ベースボール型球技」「ターゲット型球技」を取り扱い、技能の向上を図る。 2 スポーツを推進及び発展するための事項を理解できるようにし、体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えてスポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践する力を身につける。 3 映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる力を育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	スポーツを推進及び発展するための事項を理解し、多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身につけている。	映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での公正・協力・責任など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価など	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
音楽	音楽理論（音楽理論a）	2	普通科	3
教材・副教材	高校生の音楽1（教育芸術社），MOUSA2（教育芸術社）			
科目の目標	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ，専門的な音楽に関する資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽に関する基礎的な理論について理解し，楽譜に表す技能を身につけることができる。 ○音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力，判断力，表現力を身につけることができる。 ○音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。 <p>※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識を理解し，我が国や諸外国の様々な音楽に見られる楽曲の様式を理解することができる。 ○音楽の形づくっている要素を正しく読みとって，歌唱や器楽することができる。 ○音楽の専門的な学習である楽典，楽曲の形式などと和声法や対位法の知識を身につけることができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	音楽に関する基礎的な理論について理解し，理解したことを楽譜によって表そうとしている。	音楽理論と音楽表現を高め，音楽作品に対する解釈や価値判断を深めることとの関わりについて思考・判断し，表現しようとしている。	音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
音楽	音楽史（音楽史a）	3	普通科	3
教材・副教材	高校生の音楽1（教育芸術社），MOUSA2（教育芸術社）			
科目の目標	<p>音楽史の学習を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，専門的な音楽に関する資質・能力を育成する。</p> <p>○我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解することができる。</p> <p>○多様な音楽の文化的価値について考えることができる。</p> <p>○音楽に関する伝統と文化を尊重する態度を養うことができる。</p> <p>※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○我が国・諸外国の音楽史，相互の関連を図り，鑑賞活動などを通して多様な音楽の文化的価値について考えることができる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	音楽の文化的・歴史的背景などを理解し，表現上の効果を生かして演奏をしようとしている。	音楽に関する歴史的事実を知り，音楽の歴史的な変遷を踏まえ，広い視野をもち，時代背景と密接な関わりをもつ音楽の文化的価値について思考・判断・表現しようとしている。	我が国及び諸外国の音楽文化を価値あるものとして捉え，多様な音楽の文化的価値について考え，活動をしようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
音楽	演奏研究（演奏研究a）		2	普通科	3
教材・副教材	高校生の音楽1（教育芸術社），MOUSA2（教育芸術社）				
科目の目標	<p>音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，専門的な音楽に関する資質・能力を育成する。</p> <p>○演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに，理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけることができる。</p> <p>○音楽の様式を踏まえた演奏に関して思考・判断し表現することができる。</p> <p>○音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりすることができる。</p> <p>※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>（1）時代や地域による表現の特徴を踏まえた解釈や演奏に関する研究をする。</p> <p>（2）作曲家の表現上の特徴を踏まえた解釈や演奏に関する研究をする。</p> <p>（3）声や楽器の特徴を踏まえた解釈や演奏に関する研究をする。</p> <p>（4）音楽の解釈の多様性を感じ，理解する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに，理解したことを生かした演奏をしようとしている。	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏をするために思考・判断し表現しようとしている。	音楽作品の解釈やそれに基づく演奏のあり方が多様であることを演奏や鑑賞の活動を通して理解し，個性を生かした演奏を追求しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○振り返りシート ○実技テスト	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート		

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
美術	素描(素描a)		3	普通科	3
教材・副教材	美術Ⅱ(光村図書)				
科目の目標	<p>素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 ○対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○造形表現を追求する態度を養う。 <p>※造形的な見方・考え方 美術に関する専門的な学習を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然や身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ、主体的に対象に向き合い、イメージや空間、形体などを把握し、美しさを発見し、その形体や色彩、材質感などの表し方を工夫し、表現することができる。 ○対象の形体や空間、よさや美しさを端的に把握したり、大まかに捉えたりして工夫することができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現する力：自然や身近なものを対象として、深く観察し、均衡・律動・比例などの美的秩序を確かめ、イメージや空間・形体などを把握し、美しさを発見し、その形体や色彩、材質感などの表し方を工夫し表現する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けようとしている。	対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成しようとしている。	造形表現を追求しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○作品	○授業態度の観察 ○作品	○授業態度の観察 ○鑑賞活動		

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
美術	構成(構成a)		2	普通科	3
教材・副教材	美術Ⅱ(光村図書)				
科目の目標	<p>構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能を身に付けるようにする。 ○造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○造形感覚を高めようとする態度を養う。 <p>※造形的な見方・考え方 美術に関する専門的な学習を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○形体の性質と空間に果たす機能等について理解を深め、分割や配置などの工夫により、変化と統一のある構成ができる。 ○形体や色彩、材料などの効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して平面や立体に表すことができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現する力：自然や身近なものを対象として、深く観察し、均衡・律動・比例などの美的秩序を確かめ、イメージや空間・形体などを把握し、美しさを発見し、その形体や色彩、材質感などの表し方を工夫し表現する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能を身に付けようとしている。	造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成しようとしている。	造形感覚を高めようとする態度を養おうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○作品	○授業態度の観察 ○作品	○授業態度の観察 ○鑑賞活動		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
美術	クラフトデザイン(クラフトデザインa)	2	普通科	3
教材・副教材	美術Ⅱ(光村図書)			
科目の目標	<p>クラフトデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 ○表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○クラフトデザインの可能性を追求する態度を養う。 <p>※造形的な見方・考え方</p> <p>美術に関する専門的な学習を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想や構想に関する資質・能力を培い、イメージやアイデアを広げ、創造的に表現することができる。 ○素材を基に発想し、目的や条件、美しさを追求して作品を計画的に制作することができる。 ○作品を見るだけに終始するのではなく、実際に使うことを通して、作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、見方や感じ方を深め、そのよさや美しさを味わうことができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現する力：イメージやアイデアを広げ、創造的に表現できる資質・能力を身に付けるようにする。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けようとしている。	表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身に付けてようとしている。	クラフトデザインの可能性を追求する態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞活動 	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
英語	プラティカルイングリッシュ（プラクティカルイングリッシュY）		3	普通科	3
教材・副教材	LANDMARK English Communication I（啓林館） LANDMARK English Communication II（啓林館） 真・英文法大全(KADOKAWA)				
科目の目標	英語によるコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行いながら、英語で書かれた文章を読んで、情報や意見を的確に理解する力を育むとともに、英語で自分の意見を書いたり、情報をまとめるなどの表現力を養う。				
講座内容	<p>授業は通期、選択授業です。</p> <p>1 リーディング活動 最新的话题やテーマを含んだ英文を読み、英文の背景にある文化や、国際社会の諸問題などについて考察し、異文化理解を深めさせる。また、内容や構文の複雑な英文を読みながら、英文読解力の向上を図る。</p> <p>2 ライティング活動 英語やその運用についての知識を身に付けるとともに、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある英文を書く。また、既習の英文に自分の意見を付け加えたり、学習したことをメッセージとして発信できるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。</p> <p>○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	定期考査 小テスト パフォーマンステスト	定期考査 パフォーマンステスト	提出物 小テスト 授業態度の観察		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	English Communication I Lesson 1 Enjoy Your Journey ! Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniforms Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 5 Bailey the Facility Dog Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Dear World: Bana's War Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere	
	第3回	Lesson 9 Space Elevator Lesson 10 Friendship over Time English Communication II Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	
後 期	第4回	Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson 4 Seeds for the Future Lesson 5 Language Change over Time Lesson 6 Gaudi and His Messenger	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
英語	スキルアップイングリッシュ（スキルアップイングリッシュα）	3	普通科	3
教材・副教材	LANDMARK English Communication I（啓林館） LANDMARK English Communication II（啓林館） 真・英文法大全(KADOKAWA)			
科目の目標	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理して適切な英語で表現したり、要点や意図、論理の展開などを明確にししながら、情報や自分自身の考えなどを話すことができる。			
講座内容	<p>この授業は、通期、選択授業です。</p> <ol style="list-style-type: none"> チャットイング 身近な話題について英語で話すことに慣れることができるよう、様々な話題を取り上げる。これまで学習した語彙文、法や表現を使うことができるようにする。 ミニディベート 与えられた話題について、ミニディベートを行うことで、客観的・批判的・多角的な視点を身につける。また、自分の考えを道筋立てて主張できるように練習をする。 プレゼンテーション 与えられた話題について、自分の意見や調べた情報を付け加えながらプレゼンテーションを行うことで、自分の意見や考えを発信することができるようにする。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	定期考査 小テスト パフォーマンステスト	定期考査 パフォーマンステスト	提出物 小テスト 授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回 第2回 第3回	チャットिंग 2年次に履修した教科書で取り上げられたテーマについて、論点を整理しながら課題の解決に向けて効果的な理由や根拠をあげて英語による議論をする。 ミニディベート 2年次に履修した教科書で取り上げられたトピックについてペアでミニディベートを行い、ディベートで用いられる表現に慣れる。	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。
後期	第4回	プレゼンテーション 2年次に履修した教科書で取り上げられたトピックについて、資料や写真等を使用し、まとめたことについてプレゼンテーションを行う。聞き手は、その内容に関して質問・評価する。	○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
書道	書道実践（書道実践a）	3	普通科	3
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	中国及び日本の名跡を臨書することにより、書の知識を深めるとともに、技法及び筆法を習得し、創作に活かせるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>書道ⅠからⅡに選出されている中国及び日本の名跡を中心に臨書し、書道Ⅰで習得した技術・技法をさらに深く探求し、深めてゆく。また、古典臨書から得た技法を用いて、倣書から創作へ発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楷書と隸書 2. 行書と草書 3. 仮名と篆書 4. 創作 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	中国及び日本の名跡を臨書することにより、書の知識を深めるとともに、技法及び筆法を習得し、創作に活かしている。	主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を工夫している。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、書に関する見方・考え方を働かせ、生涯にわたり書を愛好する心情を育んでいる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 鑑賞課題	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 鑑賞課題	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 鑑賞課題	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
書道	実用書道（実用書道a）	3	普通科	3
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解すると共に，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○硬筆や毛筆を用いて実用的な書の技術を学び，創造的な書の表現へと発展させることを目指します。</p> <p>○小楷や仮名，小筆を用いた実用的な書の学習では繊細な筆使いと文字構成について学び，実際の場面で役立つ表現力を養います。また，硬筆書写の学習を通して，行書や楷書，平仮名，片仮名の基本形を理解し，文字の基礎的なバランスやその美を習得し，実用的な書のスキルを高めます。</p> <p>○創作活動を通じて書の表現を広げ，はがきや年賀状のデザイン，色紙作品の制作を行い，自由な発想と個性を反映した作品作りに取り組みます。また，完成した作品を相互に鑑賞し，書の表現に対する理解を深めます。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解すると共に，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身につけようとしている。	書に関する見方・考え方を働かせ，生活の中の諸文化の意味や価値を考え，書的美を味わい深く捉えようとしている。	主体的に書の諸活動に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○作品の評価	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
書道	書道概論（書道概論a）	2	普通科	3
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	中国および日本の書の歴史を学び、書の教養を深め、書芸術についての理解を深める。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>A 中国書道史</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に選出されている古典を中心に、作品名と作者名、それらの簡単な解説を学ぶ。 <p>B 日本書道史</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に選出されている古典を中心に、作品名と作者名、それらの簡単な解説を学ぶ。 <p>C 書道史</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国の書体の変遷と日本への影響を学ぶ。 <p>■ 未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	中国および日本の書の歴史を学び、書の教養を深め、書芸術についての理解を深めようとしている。	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書に関する見方・考え方を働かせ、書的美を味わい深く捉えようとしている。	書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	<input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> ワークシート	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> ワークシート	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 提出物 <input type="checkbox"/> ワークシート	

